

令和7年度第1回おやま井戸端会議「健康・医療」 議事録要旨

日時： 令和7年6月 28 日(土)10:00～12:00

会場： 小山市役所1階 情報展示コーナー

出席者： 参加者12 名

スケジュール：

(1) 開会	10:00
(2) 市長挨拶	10:00～10:05
(3) 運営委員長挨拶、運営委員紹介	10:05～10:10
(4) 意見交換	10:10～11:20
(5) 意見発表、共有	11:20～11:30
(6) 第3次健康都市おやまプラン 21 の紹介、質疑応答	11:30～11:50
(7) 市長、副市長、運営委員長感想	11:50～12:00
(8) 閉会	12:00

参加者(運営委員含む)の意見(要約)

A グループ

・医療費が膨らんでいるため、OTC類似薬が保険適用外になるのではないかという話がある。

・動くことは体と心の健康につながる。

・心の健康が損なわれると、生活保護が増え、医療費も膨らんでしまう。

→心の健康は医療費削減になる。

・心の健康を保つことで働く意欲が沸き、貧困を減らすことができる。

・他市の健康例を挙げると、坂が多い川崎市は自然と高齢者のフレイル予防になっている。

・市で、歴史・文化・芸術を重んじることで、市民の心の健康につながり、ウェルビーイングが実現できる。

→個人のウェルビーイングと市のウェルビーイングは繋がっているという意識をもって市政に取り組んで欲しい。

・地域で横の繋がりと良い。

・独居老人で外に出ていけない人が心配。

→市だけでなく、自治会や育成会等の組織の助けが必要である。

→全体的に女性より男性が家にこもりがちだが、目的を決めない集まりのほうが男性は来やすいので、「じゃあまたね」のような常設サロンが増えれば居場所ができる。

・様々な年齢層の居場所を確保することが、今後の行政の課題となる。

・子供と高齢者をつなぐ場として公民館が上手く利用できれば良い。

・地域医療を充実させて欲しい。

・1次・2次・3次医療についての知識を市民に広めるべき。

・筑西市では地域医療の冊子を中学生に配布し、子供から親へ知識を広める取り組みをしている。

→小山市でも同じような取り組みができれば良い。

・小山市は産科が少ない。

・家の近くですぐ行ける産科があると安心。

令和7年度第1回おやま井戸端会議「健康・医療」 議事録要旨

- ・新小山市民病院に産科を作って欲しい。
- ・産科を増やすのが難しいのであれば、1次・2次・3次医療をつなげて、安心して産める環境を整えて欲しい。
- ・病院の8割は赤字経営と言われており、閉業する病院が増えている。
- ・病気を予防することが大事だが、予防に関する法制度がないので、予算がとれていない。
→法制度自体を変えなければならない。

.

B グループ

- ・いくつかの科をまとめて受診できるため大学病院に通院しているが、受診日直前で都合が悪くなった場合に日程の変更が難しい、または急ぎで受診したいときに直近の日程で予約が取りづらいので不便である。
→マイナンバーカードを活用して医療情報を連携し、自分の好きな時に近くの病院で継続した受診や薬の受取りができるようになるとうい。マイナンバーカードをもっと活用できるようにしてほしい。
- ・新小山市民病院に産科をつくってほしい。
- ・地域医療をより良くするためには、様々な医療機関が連携していくことが不可欠である。市民から「こうなってほしい」という要望は声をあげて言うていく。
- ・小山市は医師・歯科医師・薬剤師との連携はできているほうだと思う。
- ・たとえば糖尿病の関係で受診した場合、内科だけでなく歯周病治療の関係で歯科が必要になる場合もある。病気やケガについて必要な科に振り分けていくことが大切ではないか。
- ・医療機関がちゃんと診療報酬をとれる体制を整えることも重要である。
- ・外出先で急な病気になってしまったときに、すぐに必要な病院へ受診できるか不安である。
→夜間や休日でも対応ができる休日夜間急患センターへ受診するなどの対応方法はあるが、市民は知らないことが多い。市や医療機関が対応方法を周知するとともに、市民も知識をつけていくことが必要である。
- ・医師・歯科医師・薬剤師が一同に集まる会議に市民も交わって参加できないか。
- ・健康推進員の集まりに医師をはじめとした医療専門職を集めて話し合える場があるとよい。
→健康推進員の集まりに医師などの医療専門職に講師をしてもらうことがある。
- ・何度も通院するのは大変なので、オンライン診療がもっと広がってほしい。
→処方に関しては、症状が安定している場合は一定期間内・回数内であればその都度診察を受けなくても繰返し利用できるリフィル処方箋もある。
- ・いきいきふれあいセンターでは運動教室などを開催しているが男性参加者が少ないので、男性にも参加してもらえよう工夫が必要である。
- ・いきいきふれあいセンターなどの場に来ることで社会的な人との繋がりができる。人と交わって会話をすることが「心の健康」に繋がっていく。
- ・各学区に駄菓子屋をつくるのができないか。子どもと高齢者の交流の場となり、心の健康に繋がると思う。

感想等(一部抜粋)

- ・市長がフランクに話してくれた。ウェルビーイングの考え方が共有できた。心の健康、居場所の必要

令和7年度第1回おやま井戸端会議「健康・医療」 議事録要旨

性の話ができた。

- ・ふだん聞けないことが知れた事や色々な人の意見が参考になった。
- ・皆さんと親しく話し合いができてよかった。
- ・市長がいるということが、市民にとっては特別だと思います。